

平成24年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A 2	取組 名称	神社・街道を中心とした城陽市域文化遺産の調査と情報化
研究代表者：		文学部	職・氏名： 教授・菱田哲郎
研究担当者： 京都府立大学（東昇、上杉和央、藤本仁文、向井佑介、竹中友里代（敬称略）） 外部分担者・協力者（小泉裕司氏ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府城陽市教育委員会文化財係など			
【研究活動の要約】			
<p>昨年度につづいて、城陽市域の神社に所在する石造物などの文化財を悉皆的に調査した。とくに石燈籠や石鳥居、手水鉢などは、地域の記憶とも言うべき銘文が残っており、それらを丁寧に記録することから、地域の歴史を解明する資料とすることができた。また、神社に関係する様々な資料を解読し、それをデータ化することにより、地域史の基礎資料としたばかりでなく、絵馬などに込められた人々の思いを復元することが可能になった。そして社叢を含めた神社の景観は、地域をつなぐ街道の中でも重要な要素となっており、古くから人々が親しんだ景観を復元する材料とすることができた。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>昨年度と今年度とで城陽市内に所在するすべての神社について、実地の石造物調査および聞き取り調査を実施した。それぞれの神社において江戸時代に遡る石造物が多く残っており、銘文も解読が可能なものが多い。また、水度神社や市辺天満神社では、燈籠が建てられた経緯を示す江戸時代の文書も残されており、村の人々が神社に寄せた思いを明らかにすることができた。</p> <p>文書資料の情報化も重要な作業として取り組みを進めた。寺田地区に加えて上津屋地区に関わる資料の情報化を積極的に進めたほか、近代初頭の「村誌」や「神社明細帳」など、地域を知るための基礎資料のデータ化を城陽市全域について達成することができた。</p> <p>さらに、奈良街道をはじめ古くからの交通路を実際に踏査し、街道の景観を記録した。これらは、地域の歴史と景観を考える基礎資料になる。</p> <p>以上の成果をとりまとめて、『京都府立大学文化遺産叢書』第6集を刊行した。旧村に相当する小地域ごとの歴史を明らかにする材料となり、今後の地域作りにも役立つものと期待できる。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>（開催した発表会・成果報告会等の開催日、場所、参加者 等を御記入ください） 報告会については平成25年度に開催することを予定している。</p> <p>（報告書、論文等のタイトル、希望者への配付/閲覧の有無 等を御記入ください） 菱田哲郎編『城陽市域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—』（京都府立大学文化遺産叢書第6集）2013年3月刊行（府大図書館で閲覧可）</p>			
【お問い合わせ先】		文学部（研究科） 考古学研究室	教授・菱田哲郎 E-mail: hishida@kpu.ac.jp

参考（イメージ図、活動写真等）



神社石造物の調査風景（市辺天満神社）



神社における聞き取り調査（市辺天満神社）



街道調査における茶摘みの聞き取り（平川）